



一休諸國物語圖繪

五



風をよみながめまきしゆりりきむ。社傳一人ゆりあ
おほほらうらたふらんあしきさちやうまひ。中
のまじりひらうららるるさず。おらん人おほひ
まはらるる。故傳はまじきとけがし。その真なる
うらららうららうららうららうらら。和尙の傳
少くともせらるる若くおひあし。山の待のま
おひあし。けふとも一そとゆらうららうらら
まらうららうららうららうららうらら。故傳
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙

うららうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙
おほへうららうららうららうららうらら。和尙

山里放光

山瀧吟落碧三

山海浪高船行雲社

山廟等一技柔神行漲景

山客成群數万人輪塵春

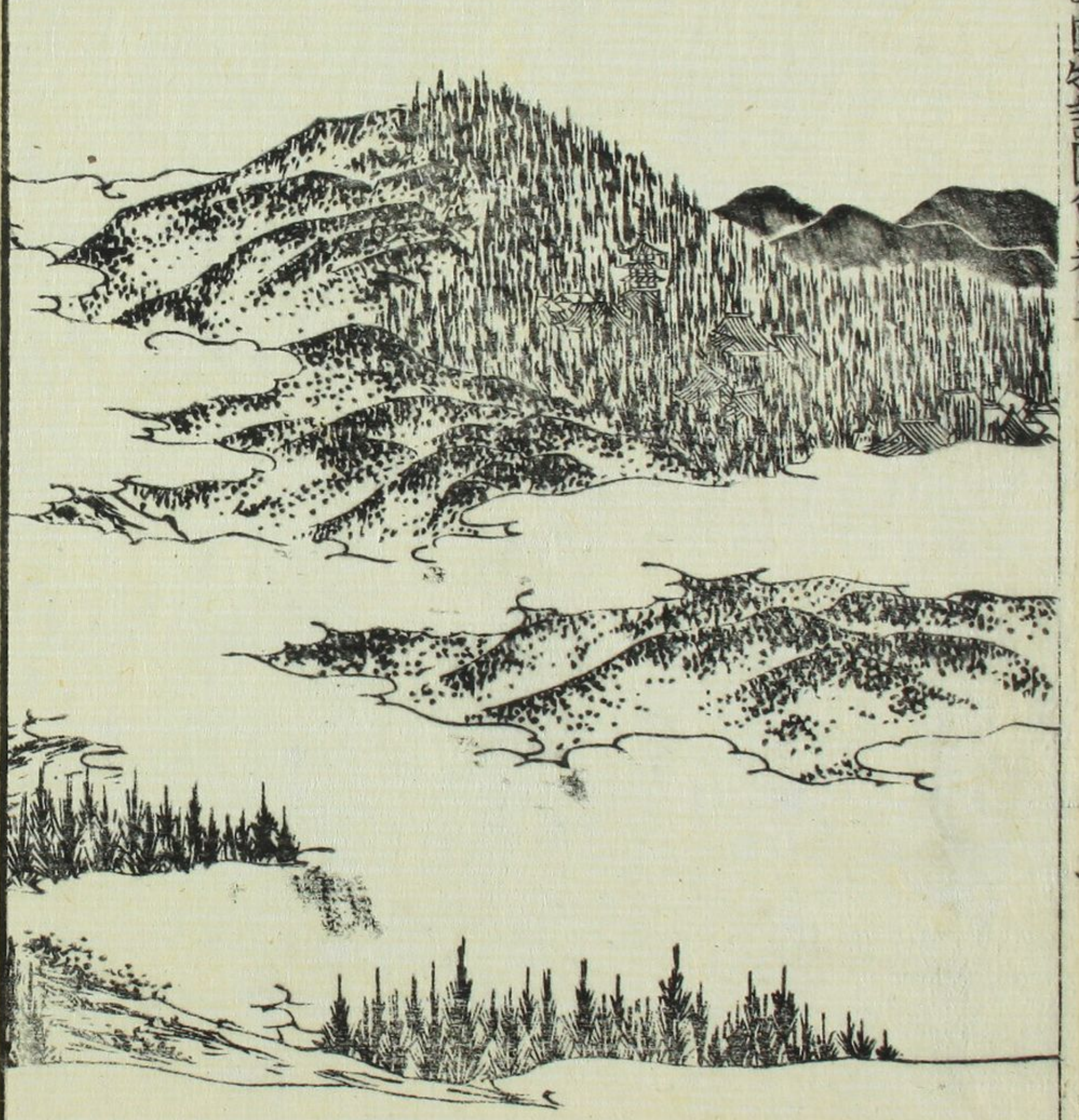
山樓鐘動月輪惚宮

山谷洗流煩木

山花猶馥

一休老人偶題

山廟等一
杖束神
山客成群
數萬人
山海浪高
舟片々
山樓鐘動
月輪々
山龍吟落
碧雲漲
山谷洗流
煩惱塵



山里放老
三社景
山花猶馥
本宮春
一休老人
偶題



山やまのたけ海うみ山やま木き谷やのな

入いあいのふりあやなるたけのな

しあきしきまきまの傍かたもともいひるや。あま
んじきまきまのふりあやのきこゆるもあま
ののうらこことんしゆ。うらむらむら
あまかきまのふりあやの東あづま傍かた待まちと出いづいと

山やま僧そう

山やま花はな叢そう木き

山やま中ちゆう心しん行ぎやう翁おきな岡おか

山やま花はな叢そう木き林りん行ぎやう良らう道どう

山やま花はな叢そう木き林りん行ぎやう出い深しん

山やまのな松しょう沈しん抱ぼう相そう

山やま猿ざる抱ぼう相そう

山やま人にん

山やま花はな叢そう木き林りん山やま遠とん路ろ出い深しん

山やま雲うん飛ひ行ぎやう山やま水すい碧へき沈しん々々

山やま鳥てう巢そう偷とう食じき山やま猿ざる樹じゆ抱ぼう吟いん

山やま僧そう來らい阿あ道どう山やま客かく還えん相そう尋しん

山やま花はな叢そう木き林りん山やま中ちゆう心しん行ぎやう翁おきな岡おか

かく書いづるに...

○ あま 坊ぼうの ま 事ことを さ する ふ 一いつ 休ひやう 和わ 尚しょう 一いつ 孝かう 小せう ありて 心こころ

毒どくく 心こころを しん して しん 又また しん 心こころ 入い 回くわい 人にん あり しん ありて しん

何なに 休ひやう 計けい とも しん 念ねん を しん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

その しん 日の しん くら しん 小せう 死し し しん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

後ご 世せい を しん 知ち ひ 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん 念ねん

子 孝ふる者ありて人。若もなづくことありこ
ひとも。庵^{いん}つゝあさう。又さ田舎人^{いん}がどろを庵^{いん}
と云ふ。素^すんよ。うねん^{いん}まもひも我^わが庵^{いん}あると
いふ。うのあつう。そのうのるまをのん若^わきあつ
かたひなり。修^{しゆ}きふまをきうのい^いなも母^{はは}を
作^わま^いる。一休^{いっしゆ}さあひ一^いちやとんますあせんを

同^{どう}な^なく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

父^{ちち}母^{はは}のま^まな^なあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
父^{ちち}母^{はは}もな^なく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
そのと知^ちず^ずとさ^さじ^じるものもあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
う^うの^のま^まな^なあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
じ^じる一^{いっ}休^{しゆ}し^しとあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

さ^さら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

とあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
一^{いっ}そ^そと^とう^うく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

い^いま^まは^はな^なや^やあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

月^{つき}の^のい^いづ^ずく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

とよ^よひ^ひの^のい^いづ^ずく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
く^く

○とよ^よひ^ひの^のい^いづ^ずく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
く^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

又母^{はは}とい^いた^た地^ちの^のあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
と^とも^も天^{てん}よ^よ地^ちの^のあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く
あ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^くあ^あら^らく^く

者國勿吾國會卷五

○かゝるこゝに... せんご

如く... せんご

○たゞ... せんご

せんごのりつ... せんご

○本... せんご

せんごのりつ... せんご

○せの中... せんご

せんごのりつ... せんご

○日... せんご

せんごのりつ... せんご

○う... せんご

せんごのりつ... せんご

ちやうどのうらうらちの夜りなごのい
~~~~~  
たごのい

○とくちふりてひるいんかたごまは

ふのうらうらちの夜りなごのい

なごのい  
~~~~~  
はひよひのい

○を申の人れはうらちの佛さまは

ちやうやあつちのいんかたごまは

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○極ふもだごのいんかたごまは

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

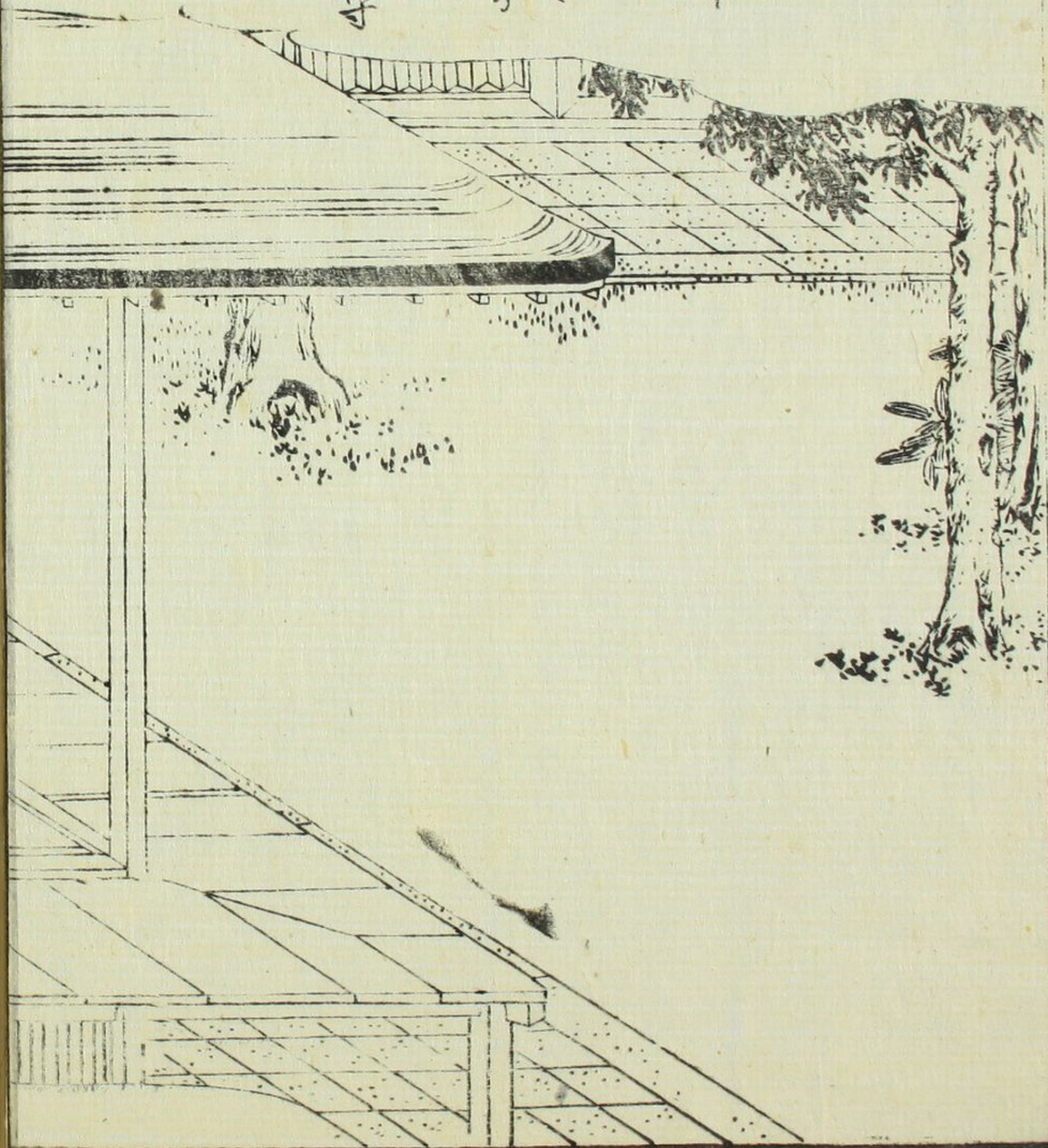
○人ちあつちのいんかたごまは

あつちのいんかたごまは  
 つげあつちのいんかたごまは  
 極ふもだごのいんかたごまは  
 人ちあつちのいんかたごまは

○一休和尚の足跡は物子に性の活をうけついでい  
 るの人物もまた大のなかり。こまふに性もあつち  
 大のあつちのいんかたごまは  
 大のあつちのいんかたごまは

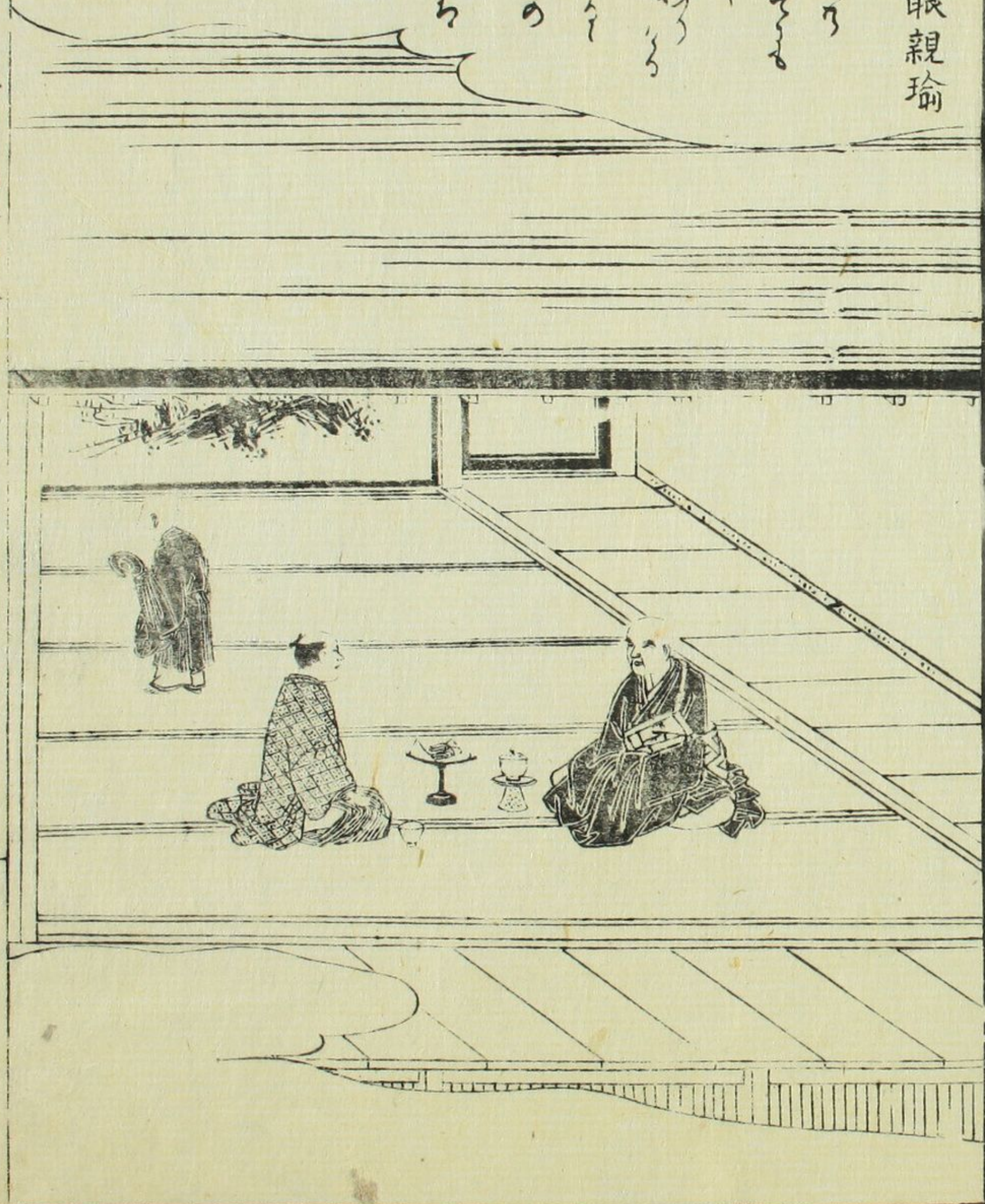
ゆきま  
みづも  
かぎも  
おろし  
しつり  
うらり  
うらり

前大僧正桓守



法眼親瑜

あきま  
まき  
ゆき  
あき  
あき  
あき  
あき



むしづめの恋のさくらまが月あめ

ちつちとまじと入くちちりや

と仰まじくはな。いま月あきと物よのさくらりや  
ころりくは。越前のさくら恋のなより千年子実仕人  
とも恋の我よりほほはり半のなり  
くらまじ。秋よとまじくくしけすと常ふゆいん  
ねてんくしと

なまじくまじなや人のおのりん

まじくの我よりまじく山表のまじ

あまじくまじくまじく人のあまじ

まじくまじくまじくまじくまじくまじ

とあまじくまじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじくまじ

くまじ

あまじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ

と仰まじくまじくまじくまじくまじ

有まじくまじくまじくまじくまじ

なまじくまじくまじくまじくまじ

と仰まじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ

くまじ

○まじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ

まじくまじくまじくまじくまじ



あはれみちのつゆのふる。流しやうらうらと大風とそよそよ  
かぶる田舎のつゆのふる。流しやうらうらと大風とそよそよ

つゆのふる。流しやうらうらと大風とそよそよ  
かぶる田舎のつゆのふる。流しやうらうらと大風とそよそよ

と作しとせしむる。流しやうらうらと大風とそよそよ  
一体とせしむる。流しやうらうらと大風とそよそよ

つゆのふる。流しやうらうらと大風とそよそよ

かぶる田舎のつゆのふる。流しやうらうらと大風とそよそよ

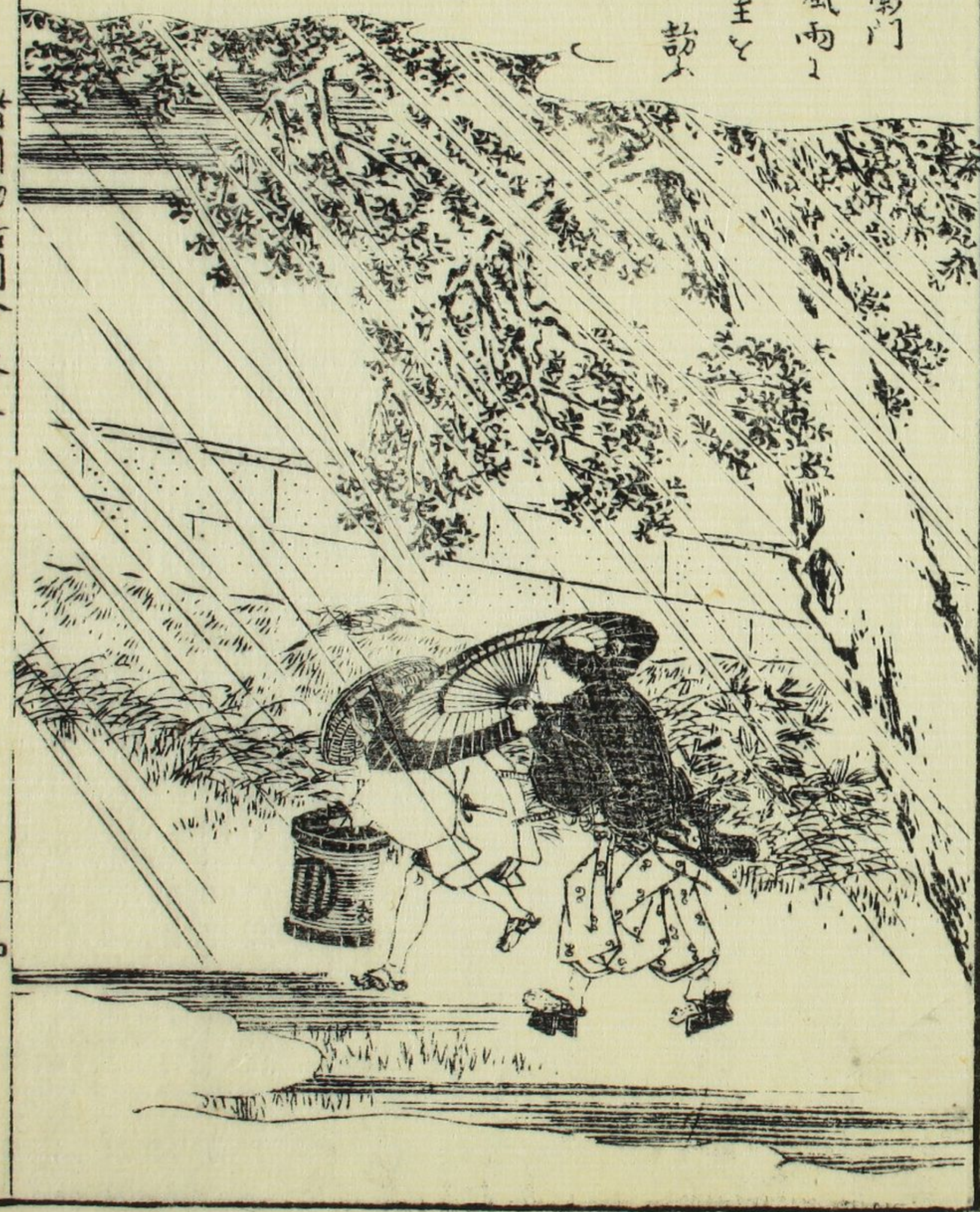
と作しとせしむる。流しやうらうらと大風とそよそよ  
一体とせしむる。流しやうらうらと大風とそよそよ

新古野門

風雨

菴室

訪











さこのゆらゆらへもまはりてあのみをさるるさたのい  
うと止めたるさへよびまのけかたあつらんがほのいふ  
とけり。一休をいふ妻きこはるまがねて又人との  
まへに山伏大いなるの赤木の影珠とさるるくし  
がらんとて一いふさいのりらり。一切大いなりやまの  
あつらふもかたりきまがたさやまこさぬけく。十文を  
大のりんとあよあびるんんんんんんんんんんんんんん  
りやます。一休かこくさくさくさくさくさくさくさくさ  
ほのまふたびくんんんんんんんんんんんんんんんんんん  
あのみゆらゆらとあつらふさくさくさくさくさくさくさく  
より登坂のやまあへりていふ。あつらふ目とさるる。  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
一目えくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
とくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

かくりりり

○ 観見法 叟 草木 国土 悉皆成佛

りんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

○ 竹成えんねりなるさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

とつさくさくさく

りんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

○ さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

りんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

○ 柳ヤナギのえんどうえんどうはくまらぬ

ひんがしはうらたのらりしをばかきしめりてあはれなるなり。  
けだかなるをばかきしめりてあはれなるなり。目もくもく  
あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。  
あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。  
あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。  
あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。あはれなるなり。

○ あゝあゝの春乃はるのはくまらぬ

あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。

○ 本ほん見みせせぬぬとといいふふははくくままららぬぬ

あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。

○ 混ま沌んのいいははくくままららぬぬ

あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。

○ 又また母はは未ま也やとといいふふははくくままららぬぬ

あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。

○ 又また母はは未ま也やとといいふふははくくままららぬぬ

あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。  
あゝあゝの春乃はくまらぬ。あゝあゝの春乃はくまらぬ。

○ 又また母はは未ま也やとといいふふははくくままららぬぬ

軒多しそつうまたりそつう慮るるもふもふまなり。  
うまなりがけしむと西観と出せしけしとりしあ。こまも望と  
りしむい。ま望ふんあつまうかあそびしるもつう。あつむの  
西観の望ふ

藤原二十年  
後六十年

後白二十年  
赤野御事大御所

けがとあり又の清ふ

偏用中 昨月昨日  
返済中 今日今日

修 色くわいのとを思ふ  
年東 色くわいのとを思ふ

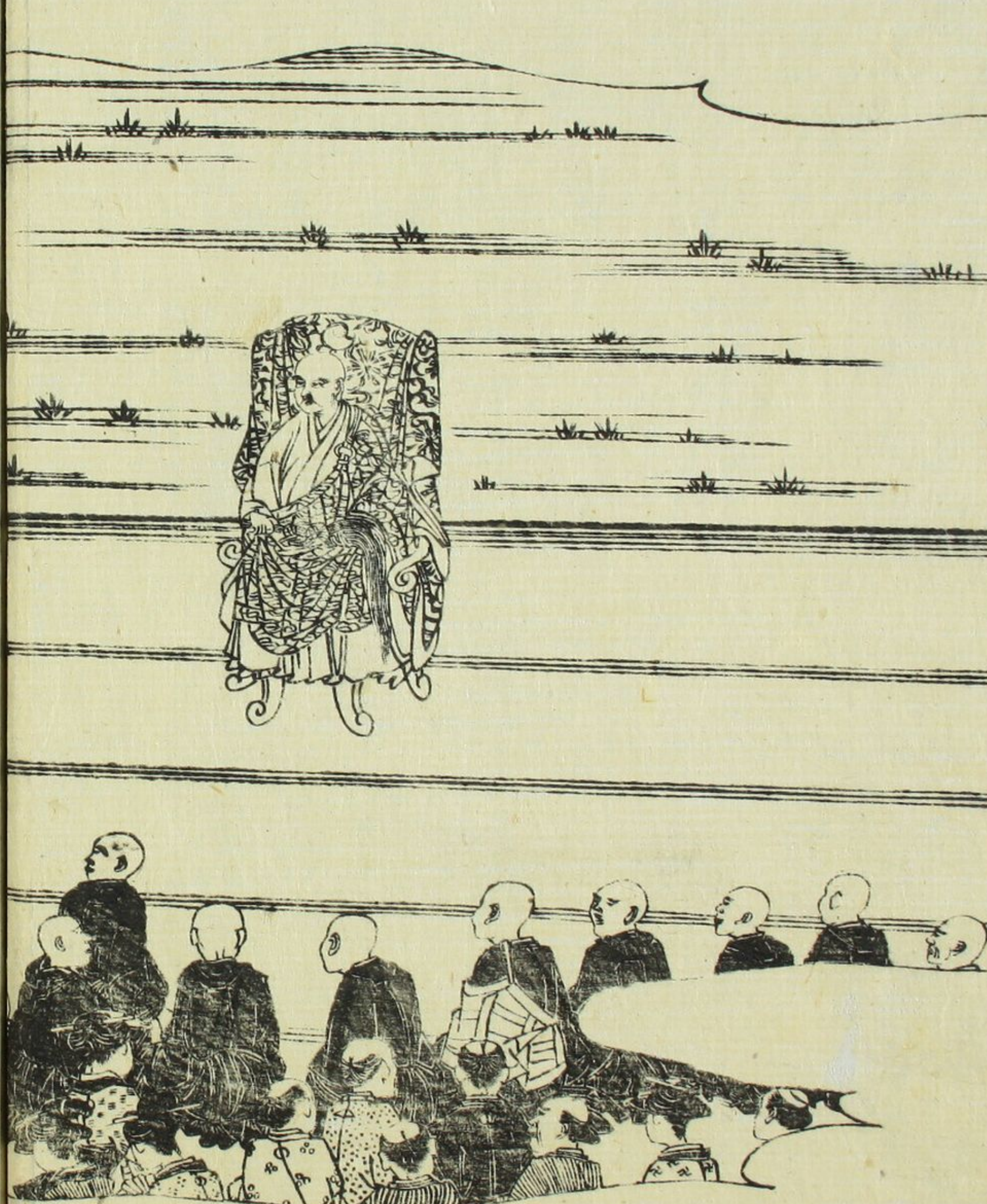
又ありあつるらんはつとそ人のつらひ

せや死也 色くわいのとを思ふ  
柳ら 色くわいのとを思ふ

柳不保花不紅 西月心く 一体色

○ 又あり人一体の西月人月半ありとありつらつが。或  
夜中 緑小唱今良とあまうけつ。一体の西月つらつと  
あつとつらつ。一々名譽を極めつらつ半もあつらつ  
中もつらつ。あつとつらつ。あつとつらつ。あつとつらつ  
つらつとつらつ。あつとつらつ。あつとつらつ。あつとつらつ  
とつらつ。九竹の松杖とつらつとつらつとつらつとつらつとつらつ

柳 緑花を紅  
竹 脚交平  
丈 子  
虎 堂々再東天不若和尚 一体宗氏  
今 月 時 節  
後 六 月 名  
赤 野 御 事 大 御 所









○水の音も入るるもなき不動の如く

あはれなるもなきもなきもなきもなきも

あはれなるもなきもなきもなきもなきも

あはれなるもなきもなきもなきもなきも

○かなさうもなきもなきもなきもなきも

又人の作りりやうとなきもなきも

人かたもなきもなきもなきもなきも

あはれなるもなきもなきもなきもなきも

○物さのりもなきもなきもなきもなきも

なまらぬものなきもなきもなきもなきも

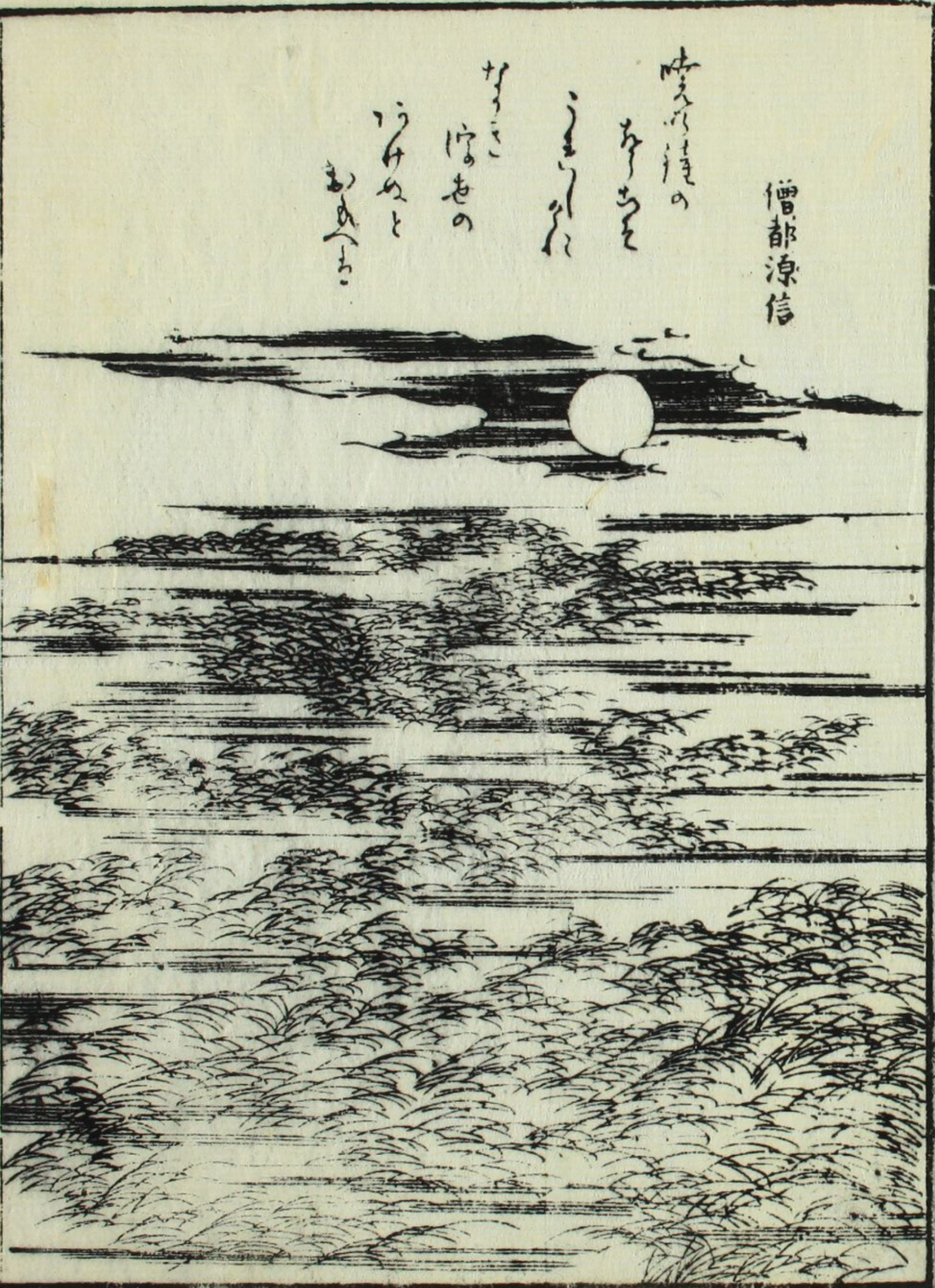
あはれなるもなきもなきもなきもなきも

あはれなるもなきもなきもなきもなきも

○あはれなるもなきもなきもなきもなきも

あはれなるもなきもなきもなきもなきも

あはれなるもなきもなきもなきもなきも



僧都源信

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる



○ついでとてさきとてついで春のついで

ついでとついでついでついでついでついで

ついでついでついでついでついでついで

は中絶の文の終のまをさるる。以の常糸我浄とてううまを

の縁通なり。我も我浄なり。はる常糸なり。終のついで

ついでついでついでついでついでついで

ついでついでついでついでついでついで

○一休のついでついでついでついでついでついで

本一休のついでついでついでついでついで

我心如寒日 秋木清き影

とありしが一休のついで

我らついでついでついでついでついで

ついでついでついでついでついでついで

とありしが一休のついでついでついでついでついでついで
殊なりとついでついで一休のついでついでついでついで
ついでついでついでついでついでついでついで

一休和尚狂詩二十首

題ニ鉢鼓

昏不立す夜不茵 東西南北自由身
瓢尊和麗有 何 益 花 葉 十 方 淨 土 春

普賢の菩薩

七六

元來有物不離身  
全體分明去面目

揚手同揚伸足伸  
起居動靜似海人

今日彼岸又開  
彼岸又開

結身負大兩腰  
結身負大兩腰

昔江東沒落時  
欽河橫斜疎影古

起青道心成法師  
伊勢壘危暗皺眉

孤洲寒食幾千  
夜涼依彼半風食

余身多極之維  
天至曉鐘林作眠

一生忍節動焦身  
入道修行苦時事

八寸推根尚勝人  
漁史老去華頭中

元來有口更言  
一切衆生迷塗所

百億毛頭擁九痕  
十方諸佛出身門

紅顏綠髮冠沙  
苦行貧儂憐慈志

况忘却年十二  
寮前吹味致推參

少壯十五月出  
木石心多世上

一矣紅顏花似  
嗚呼是此玉瓶哉

若衆天好富貴  
酒茶又世錦

摺切難可入御  
山嶺風原只文字

贊兒文珠

看重忽忘七佛師  
雲鬢家樂少年姿  
定有愁人小艷詩

汝是棄頭陀  
佛一人不救  
我子一願

萬民不世  
贊大黑  
諸人信仰置棚陰  
足下米囊去用心

大黑尊天其面點  
平生覺氣是何事

善提煩惱  
睡裏乾坤  
寤寐恒一

佛之虛言  
青地廟切箇  
日未晴時如見早  
宇治川畔亂飛螢

本有鍛茲思出度  
又

射手名能登守  
八島之壇浦合  
戰畧  
兵法達者源九郎  
狼籍忠信亡菊王

秋風有恨鳴浦  
一谷合戰畧  
平家運兵出堅城  
日夜風濤戰鼓聲

長江不洗英雄恨  
源九郎流馬  
恰如初月掛晴空  
天下英雄在怒中

漫漶波已落引  
白伸左臂取耒耜  
身命碎珠回馬時  
法然庵室念弥陀

生丰德谷招於敦盛  
德谷道心後此茂  
治川先陣圍  
東關緒將各爭先

美騎如宇宇水迎  
佐々木四郎宇治川先陣圍  
東關緒將各爭先

美騎如宇宇水迎  
佐々木四郎宇治川先陣圍  
東關緒將各爭先

功名誰出四郎上 一馬化龍何着鞭

古

一休和尚の世に及ぶ歌百首とて

三國の信はくわく多うきと  
 志やりのとくはなほぞき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき

一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき  
 一休和尚の世に及ぶ歌百首とて  
 二色あんなりのとくき

此後ら物心ゆるんまはる  
二せあふのてくたうらう

皆人のゆるん孝忠あふて  
せ死な事やなげくありき

此性もあふれ佛のおかしら  
ゆふんもせ死後持たまひ

此らもさしれらるるわら  
ゆんらあふとやうせら

かああふもあふもさしれらる  
若くあふとあふあふ

ゆふもせ死のうらうら人の  
あふいつあふれもせら

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

見ゆ  
若くゆるんあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

佛もあふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

一念の中らあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる

あふれらるるあふれらるる  
あふれらるるあふれらるる





ついでに... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

... 後... 一... の... 一... の...

こと

... 後... 一... の... 一... の... 一... の... 一... の...

百余年一として信え奉るなり。こそおまをなと信え奉る  
 の一休和尙の再興なり。あつては死骸ともさき  
 かゝりて入る事あり。又今の内本像へ入るの  
 のらの他佛を法見のあつてはゆるるれまで一休  
 和尙の四つり像とち結し納らるる。被の像と作  
 する。此の像の神をたてとて。あつては利像と内  
 内像ふいりて。此の像とたて。こそは利像と  
 十名の代乃我。おしける事あり。こそは利像と  
 集めぬふ首の人乃と得ると。あつては利像と  
 人。こそは利像と。おしける事あり。こそは利像と  
 め。こそは利像と。おしける事あり。こそは利像と  
 う。こそは利像と。おしける事あり。こそは利像と  
 おのづから身。おしける事あり。こそは利像と  
 ころ。こそは利像と。おしける事あり。こそは利像と

一休和尙のうすめ  
 あつては利像と

鬼乃月々ながさの川の源なる  
 ちぶくの谷に下りてゆる

地獄の鬼にゆけてゆる

平田止水居士輯  
 源 基定補正

菱川清春画

天保七丙申年正月新刻  
慶應元乙丑年十月補刻

江戶日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛



同日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

京都三條通柳馬場角

堀屋仁兵衛

大阪堀筋大寶寺町角

豐田屋卯左門

同心齋橋南二丁目

敦賀屋九兵衛

同 同 所

秋田屋市兵衛

同心齋橋通博勞町角

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安土町南角

河内屋和助

# 書林

## 皇漢歐諸書籍製本發兌

京都

尚書堂 辻本定治郎

三條通柳馬場東入

尚古堂 辻本九兵衛

寺町通三條上ル

書肆

尚書堂 辻本信太郎

大坂北久太郎町四丁目

